

ボランティア活動グループ訪問記



手話ダンスグループ 花言葉 ひと



あじいこの雨の中、こども活動場所のこどもたちが市立けやき体育館へお邪魔しました。部屋は一階石奥の小さい方の体育室。時間が近づくとこどもたちの顔が増えてきた。こども先日の10月17日(土)は今年度中止になったほかはあじいこどもセンターの代わりとして開かれた、あじいこどもセンターの「あじいこどもフェスタ2020特別イベント」のステージに出演されたばかりだ。衣装も大変素敵でこどもたちも楽しく思っている。あじいこどもセンターのこどもたちも楽しんで感想を聞かせてくれた。



笑顔が素敵なお山さん(右)と佐藤さん

こどもセンターの練習がスタートする前に、お山さんと佐藤さんのお二人とお話をうかがった。会の設立は平成11年で、かれこれ20年続けていることになる。お山さんは途中で難聴になり、何か自分に出来ることではないかと考え、日本手話ダンスクラブに入会して花言葉を学びました。会員は全国1千人、本部は川崎です。特にダンスが好きだったという訳でもなく、手と足の動き、体の動き、すべてにおいて最初は戸惑いばかりだったそうです。

ら踊ってきた。全てを覚えてはいるが、「見上げ」の夜の星を「瀬戸の花嫁」など10〜15曲ほどの曲を合わせて踊るようになった。こどもセンターの練習がはじまりました。

「歌詞を覚える、ステップ(足の動き)を頭に入れて、聞ける人が合わせて覚えていきます。まず曲名を聞いて、振り付けを思い浮かべてから、踊り始めは曲が聞こえる人が先にスタートを切る。それを見ながら合わせて踊り始めます。

「練習を始める準備ができて練習がはじまりました。静かなリズムの曲に手の動きを合わせ、からだも足もこもしなやかに踊られている。折角だから取材者の私も、見様見真似でからだを動かしてみますが、さすがにその夜足が異常にこわばりました。



練習もソーシャルディスタンスをとりながら

終わりに佐藤さんの的確な質問の要約とお山さんの笑顔でお話をうかがったことに感謝いたします。

材側の私も未熟なものですから、ぜひお聞きしたい。手話ダンスグループ... 手話を使って歌詞のイメージを見ながらリズムの楽しさを合わせて踊りたいです。聴覚障がいを持った方が見えない、踊って楽しむという、そこにはおもしろい世界がありました。詩の心を手話で優しく暖かく表現出来る楽しさを学びたい。一曲の詩から沢山の手話が覚えられ、楽しくなります。一歩前に踏み出す勇気を与えてくれる。あじいこどもセンターにも、速い曲調にも対応。リズムダンスに近い部分もあつて、手のこども、体の動きで曲調や歌詞を表現している。それが手話ダンスの魅力。

手話ダンス花言葉 代表 小山幸子 (植野)



TEL 0421-0244
相模原市田名1-21-2
FAX 0421-7621-7530

12月の記念日は?

小倉義男

12月15日、観光バス記念日です。1925年のこの日、東京乗合自動車により日本初の定期観光バスである「ユーランバス」の運行が開始されたことから、記念日として制定。新型コロナウイルスの感染拡大により観光バス業界は、閑古鳥が鳴いていますが、GoToキャンペーンの開始によって、ようやく客足が戻りつつあるようです。早く感染が収束し、観光鳥が鳴いてほしいですね。(o^^o) 小倉画

